

事務事業名		公用車維持管理事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	総合政策部	担当課	財産管理課
	政策	2 自立した行政経営によるまちづくり						新規事業・継続事業	担当係	管財係	担当課長名	横塚 治
	施策	1 効率的な行政経営の推進						実施計画事業・一般事業				
	基本事業	2 効率的・効果的な事務事業の推進と組織編成						市単独事業・国県補助事業	継続事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	1140	一般	2	1	6	公用車維持管理事業						
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市有自動車等使用及び管理規程 佐野市有バス使用及び管理規程						
							市単独事業	市単独事業				
						任意的事業・義務的事業	任意的事業					
						実施方法	直営					
						事業分類	その他内部事務事業					
						リーディングプロジェクト	該当なし					
						市長マニフェスト	該当なし					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
・公用車の管理について、集中管理方式を積極的に進め、適正な運行管理を行う。 ・市有バスの適正な運行管理を行うとともに、それぞれの目的に応じて効率的に運用をする。	公用車の車検、点検、修繕						
	活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	集中管理車稼働台数(1日あたり)	台	33	33	33		
	バス運行回数(年間)	回	350	396	380		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

・職員 ・公用車 ・公務の視察、研修等を必要とする団体	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	集中管理車両台数	台	37	39	39		
	バス台数	台	3	3	3		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

・公用車の管理について、集中管理方式を積極的に進め、適正な運行管理、車両管理を行うことにより、経費の節減に努める。 ・一度に多人数の移動を必要とする事業を実施する際にバスを活用することにより、公用車の運行台数を減らすことができ効率的な移動手段を確保する。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	稼働率(稼働台数/集中管理車両台数)	%	89.2	84.6	84.6		
	バス1日当たり運行回数(運行回数/365)	回	0.96	1.08	1.04		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市有財産が有効に活用されている	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	実質公債費比率	%	6.3	10.0	10.0		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	11,708		12,540		12,317					
	事業費計(A)	千円	11,708		12,540		12,317		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			需用費	9,849	需用費	9,990	需用費	10,337				
			役員費	1,525	役員費	1,894	役員費	1,619				
負担金			25	負担金	25	負担金	26					
公課費			309	公課費	631	公課費	335					
人件費	人	4		4		4						
のべ業務時間	時間	1,970		1,945		1,945						
人件費計(B)	千円	7,665		7,665		7,665		0		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	19,373		20,205		19,982		0		0		

事務事業名	公用車維持管理事業	担当部	総合政策部	担当課	財産管理課	担当係	管財係
-------	-----------	-----	-------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	自家用自動車の普及と同時期
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	財政状況がさらに厳しくなるなか、更なる経費節減が求められてきており、交通手段のさらなる効率性が求められてきていると共に、先進地視察等の出張業務の精査も求められている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	集中管理による効率的運用と車両台数の節減

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる効率的稼働を目指し、適正な車両台数に向け利用実態を把握するために車両使用簿の改正を行った。</li> <li>・安全教育を徹底することにより、修繕料等の削減を図る。</li> </ul>

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	集中管理を行うことにより、効率的な車両管理を行うことができるとともに、適正な車両台数を把握できるため、不要な車両を削減することができ、車両維持管理経費の節減に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	自家用公用車及びバスとして保有しているため、維持、管理が必要である。リース車両を使用することで、委ねられる可能性はある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	自家用公用車及びバスとして保有しているため、対象は限られてしまう。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる効率的稼働を目指し、適正台数への削減を図る。</li> <li>・安全教育を徹底することにより、修繕料等の削減を図る。</li> </ul>
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	理由・改善案	類似事務事業名   有償バス維持管理事業 ・自家用有償バスやスクールバスとの連携が図れるかどうか検討する余地はある。
	類似事務事業はあるが、統合・連携できない	理由・改善案	*類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス運行について出張目的を精査して運行回数を減らし経費節減を行い、人件費の削減も可能となる。</li> <li>・集中管理車については、更なる効率的稼働を目指し、適正台数へ削減する。安全教育を徹底することにより、事故等を減らし、修繕料等の削減を図る。</li> </ul>
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	自家用バスであるため、料金の収受は難しい。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	バスなどの大量輸送手段は必要であるので、代替策として、民間バスの借り上げや外部委託が想定される。	
		公用車集中管理については、各課が管理をする方式に戻せば空車状況の把握が難しく、適正な配置が不可能になり、経費節減につながりにくくなる。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) : 事業のやり方改善(コストの見直し) *評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ①更なる効率的稼働を目指し、適正台数へ削減を図る。(集中管理) ②安全教育を徹底することにより、修繕料等の削減を図る。(集中管理) ③効率的な運行計画の策定によるバス保有台数の削減による維持管理経費の削減。(バス)	廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>①②</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	③			維持	①②		×	低下		×	×	・効率的稼働を行うためには、職員の更なる意識改革と協力が不可欠である。 ・運転手の人件費削減については、現時点では市全体で雇用されている運転手が退職するまでは経費の節減につながらないため、長期の雇用計画も踏まえ検討しなければならない。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上	③																							
	維持	①②		×																					
	低下		×	×																					